

**製品名: C1q-C ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07725**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	30kDa

**抗原情報**

遺伝子名	C1QC
別名	C1QC; C1QG; Complement C1q subcomponent subunit C
遺伝子 ID	714.0
SwissProt ID	P02747
免疫原	抗血清はヒト C1QC 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

**背景**

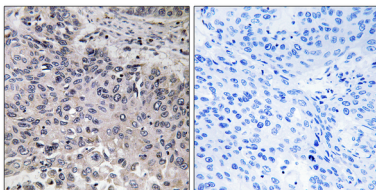
この遺伝子は、ヒト補体サブコンポーネント C1q の主要成分をコードします。C1q は C1r および C1s と会合して、血清補体系の第一成分を生成します。C1q の欠損は、エリテマトーデスおよび糸球体腎炎との関連が指摘されています。C1q は、6つの A 鎖、6つの B

鎖、および6つのC鎖の計18本のポリペプチド鎖で構成されています。各鎖は、N末端付近に位置するコラーゲン様領域と、C末端の球状領域を含んでいます。A鎖、B鎖、およびC鎖は、1番染色体上にA-C-Bの順に配列されています。この遺伝子は、ヒト補体サブコンポーネントC1qのC鎖ポリペプチドをコードします。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患：C1QCの欠陥はC1q欠損症[MIM:120575]の原因です。これは、反復性感染症とループスエリテマトーデス様症状の有病率の高さに関連するまれな遺伝性疾患です。補体古典経路の活性化の喪失を特徴とします。機能：C1qはプロ酵素C1rおよびC1sと結合し、血清補体系の最初の成分であるC1を生成します。C1qのコラーゲン様領域はCa(2+)依存性C1r(2)C1s(2)プロ酵素複合体と相互作用し、C1qの球状頭部が免疫複合体中に存在するIgGまたはIgM抗体のFc領域と相互作用すると、C1が効率的に活性化されます。オンライン情報：C1QC変異db,PTM:O結合型グリカン、翻訳後に付加されたヒドロキシル基の酸素原子に結合したGlc-Gal二糖で構成されています。類似性：1つのC1qドメインを含みます。類似性：1つのコラーゲン様ドメインを含みます。サブユニット：C1は、モル比が1:2:2のC1q、R、およびSのカルシウム依存性三分子複合体です。C1qサブコンポーネントは9つのサブユニットで構成され、そのうち6つはA鎖とB鎖のジスルフィド結合二量体であり、3つはC鎖のジスルフィド結合二量体である。

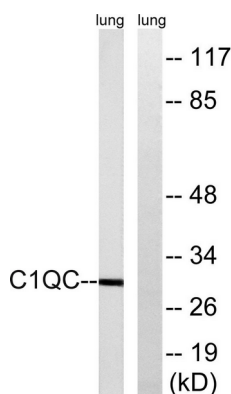
## 研究分野

補体および凝固カスケード、プリオン病、全身性エリテマトーデス、

## 画像データ



C1QC抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



C1QC抗体を用いたラット肺ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。